産業観光
きりゅう紀行 86

祖先の暮らしに一家団らんを夢見た旧石器文化研究のパイオニア

相澤忠洋記念館

それまで誰も立証できなかった日本における旧石器文化。1946年（昭和21）、桐生市の考古学者・相澤忠洋（1926-1989）は、岩宿（現みどり市笠懸町）の縄文時代以前の地層より、旧石器時代のものと思われる石器を発見する。その3年後には同じ地層から原型を留めた黒曜石の槍先形尖頭器を発見し、日本で初めて旧石器時代に人類の文化が存在することを明らかにした。

1926年（大正15）に生まれ、幼少期を鎌倉で過ごした相澤は、自宅裏で土器片を発見したことを機に太古の時代に強く惹かれていく。妹の死や両親の離婚などを経て11歳の時に桐生に移り住むが、生活の貧しさから、間もなくして東京の履物屋へ奉公にだされてしまう。孤独な少年期を過ごした相澤少年は、一家団らんに憧れ、集団生活を営んだ太古の祖先へその想いを募らせていく。

太平洋戦争時には海軍に志願、終戦後は再び桐生に移り、行商をしながら赤城山南麓における縄文早期文化の発掘調査に本格的に取り掛かる。数々の遺跡を発見し調査した相澤であったが、岩宿遺跡の発見は、共同調査にあたった明治大学の功績とされた。「学歴を持たぬアマチュア」がその理由だった。そんな相澤の功績を訴えたのが、当時同学の大学院生で、ともに調査にあたった芹沢長介（東北大学名誉教授・東北福祉大学名誉教授）である。芹沢教授は、独学で考古学を修得し日々の努力と天才的な感覚で岩宿遺跡を発見した相澤を「相澤君は玄人であり専門家である」と称した。

相澤が発掘し、終焉の地となった夏井戸遺跡に建つ相澤忠洋記念館には、槍先形尖頭器をはじめとする石器や土器、芹沢教授との交遊の記録など、相澤縁の品々が多数収蔵されている。赤土に執念を燃やした真のプロフェッショナルの偉業を、市民の誇りとして大切にしたい。

●場所／桐生市新里町奥沢537　●電話／0277－74－3342
●HP／http://www15.plala.or.jp/Aizawa-Tadahiro/　●入館時間／午前10時～午後5時（午後5時30分閉館）
●休館日／月曜日　●入館料／大人500円（高校生以上）　小人250円（小中学生）　小学生未満無料